

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 2022年第1四半期 決算説明

2022年4月25日

取締役上席執行役員 蛭川 初巳



キヤノンマーケティングジャパン株式会社

■本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
■本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知ください。

皆さま、こんにちは。蛭川でございます。

本日は大変お忙しい中、2022年第1四半期決算説明会にご参加いただき、誠に有難うございます。

まず最初に、当社は、東京証券取引所の市場区分再編にともない、本年4月4日より「プライム市場」へ移行しましたので、ご報告申し上げます。今後とも宜しく願ひいたします。

それでは、2022年第1四半期決算と業績予想についてご説明します。

売上高	1,474億円	(前年比 +71億円／+5%)
------------	----------------	------------------------

✓ エリアは減収となったものの、コンスーマ、エンタープライズ、プロフェッショナルが増収となり、増収

営業利益	148億円	(前年比 +42億円／+40%)
-------------	--------------	-------------------------

✓ 全てのセグメントで増益となり、増益

親会社株主に帰属する 四半期純利益	100億円	(前年比 +20億円／+26%)
------------------------------	--------------	-------------------------

2

2ページ目は、1Q決算のポイントになります。

売上は、製品の供給不足の影響を受けたこと等によりエリアセグメントで減収となりましたが、コンスーマセグメント、エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで増収となり、5%増の1,474億円となりました。

営業利益は、全てのセグメントで増益となり、42億円増益の148億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、20億円増益の100億円となりました。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明いたします。

✓ 営業利益、経常利益は四半期の過去最高を更新

(単位：億円)

	2021年 1Q	2022年 1Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,404	1,474	+71	+5%
売上総利益	(33.7%) 473	(34.3%) 505	(+0.6%) +32	+7%
営業利益	(7.5%) 106	(10.0%) 148	(+2.5%) +42	+40%
経常利益	(7.8%) 109	(10.0%) 147	(+2.2%) +38	+35%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(5.7%) 80	(6.8%) 100	(+1.1%) +20	+26%

3

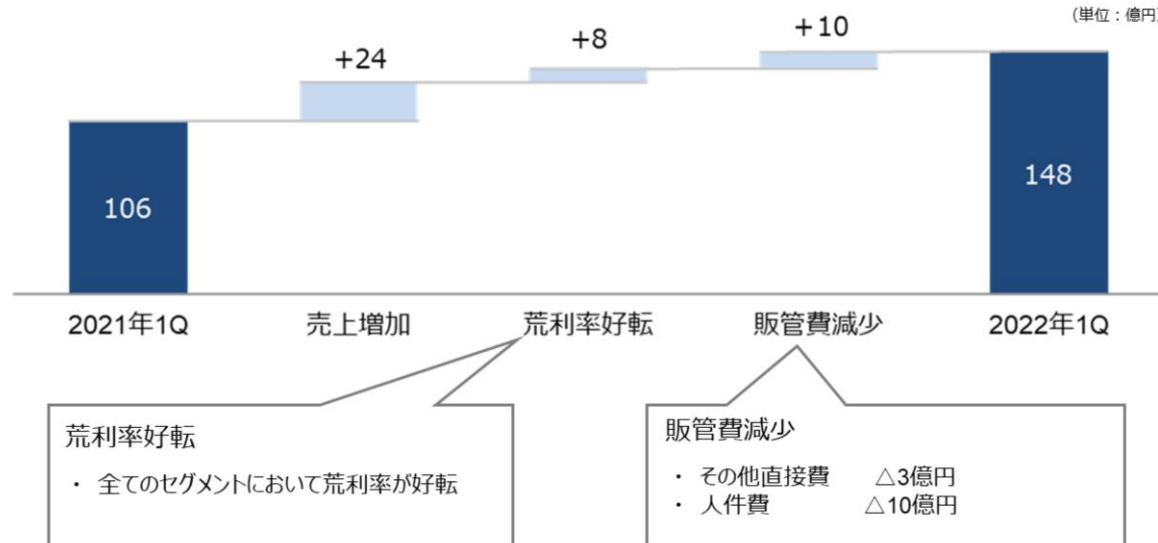
3ページ目は、1Qの業績サマリーです。

2022年1Qは営業利益、経常利益において、四半期では過去最高の数値を更新することが出来ました。

営業利益分析 第1四半期(1月～3月)

Canon

(単位：億円)



4

続いて4ページ目は、1Qの営業利益分析です。

売上の増加に伴い、荒利が24億円増加しました。また、高付加価値な製品・サービスの売上構成比が上昇したこと等により、全てのセグメントの荒利率が好転いたしました。

販管費につきましては、退職給付費用の減少等による人件費の減少や、ビジネス機器の出荷減に伴う費用の減少により、10億円減少しております。

なお、販管費の詳細は17ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

セグメント概要 第1四半期(1月～3月)

Canon

	2021年 1Q		2022年 1Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	306	30	312	31	+6	+1
エンタープライズ	473	36	512	54	+39	+18
エリア	594	40	572	45	△22	+6
プロフェッショナル	82	7	128	22	+46	+15
その他	△51	△6	△50	△4	+1	+2
合 計	1,404	106	1,474	148	+71	+42

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

5

5ページ目は、1Qのセグメント別の実績概要です。

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラ、インクジェットプリンターの増加等により、増収
- ✓ 営業利益は、高単価製品等の売上増加に伴い、増益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2021年	2022年	対前年
売上高	306	312	+2%
営業利益	30	31	+4%
利益率	9.8%	10.0%	+0.2%

■ コンスーマ製品（対前年伸び率）

		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
レンズ交換式デジタルカメラ	(台数)	+3%	-	-	-	-
インクジェットプリンター	(台数)	+6%	-	-	-	-
インクジェットプリンターカートリッジ	(金額)	+4%	-	-	-	-

6

続いて6ページ目からは、セグメント別の実績をご説明します。

1Qのコンスーマセグメントは、レンズ交換式デジタルカメラ、インクジェットプリンターの増加等により、売上は対前年2%増の312億円となりました。営業利益は、高単価製品等の売上が増加したことに伴い対前年1億円増益の31億円となりました

（レンズ交換式デジタルカメラ）

レンズ交換式デジタルカメラについては、EOS Rシステム搭載のミラーレスカメラ等が順調に推移し、対前年プラス3%となりました。また、交換レンズについては、ミラーレスカメラのEOS Rシリーズのユーザーが拡大していることによりRFレンズを中心に好調に推移しました。

（インクジェットプリンター）

インクジェットプリンターについては、高単価製品が好調に推移したことや新製品の発売等により、対前年で台数はプラス6%となりました。

インクカートリッジについては、4月の価格改定を見据えた駆け込み需要等により売上は増加しました。

（ITプロダクト）

ITプロダクトは、PCの周辺機器等の外部から仕入れている商品の供給不足の影響を受け、売上は減少しました。

- ✓ 売上高は、主要ビジネス機器が製品の供給不足の影響を受け減少したものの、ITソリューションビジネスが好調に推移していることにより増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加や販管費の削減に努めたことにより、大幅に増益

	1Q実績			(単位：億円)
	2021年	2022年	対前年	
ビジネス機器他	161	150	△7%	
ITソリューション	311	362	+16%	
売上高計	473	512	+8%	
営業利益	36	54	+51%	
利益率	7.5%	10.5%	+3.0%	

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンITソリューションズ

	1Q実績		増減	
	2021年	2022年	金額	率
売上高	245	277	+32	+13%
営業利益	24	38	+13	+55%

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
受注高 (金額)	+14%	-	-	-	-
受注残高 (金額)	+33%	-	-	-	-

7

7 ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

1Qの売上は、製品の供給不足の影響等によりビジネス機器は減少しましたが、ITソリューションが増加したことにより、対前年8%増の512億円となりました。営業利益は、ITソリューションを中心とした売上増加に伴う荒利の増加や販管費の削減に努めたことにより、対前年18億円増益の54億円となりました。

(ビジネス機器他)

主要ビジネス機器の状況については、製品の供給不足の影響を受け、オフィスMFP、レーザープリンターの売上は減少しました。オフィスMFPの保守サービス、レーザープリンターカートリッジについては、大手企業のテレワークが継続し、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は減少しました。これらの結果、「ビジネス機器他」全体の売上は、対前年7%の減収となりました。

(ITソリューション)

ITソリューションについては、製造業向けのSI案件や組込みシステム開発案件が増加していることに加え、金融業向けのSI案件やデータセンター2号棟の売上が順調に推移しております。また、BPOやビジネスPCの案件が複数あったこと等により、売上は対前年16%の増収となりました。

(キヤノンITソリューションズ実績／売上高・受注残高)

主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は対前年13%増の277億円、営業利益は対前年13億円増の38億円となりました。

受注高は、製造業、流通業、金融業向けのSI案件が順調に推移したこと等により、対前年14%の増加となりました。

また、受注残高については、受注高と同様の傾向であることに加え、昨年受注したデータセンター2号棟の案件の影響等により、対前年33%の増加となっております。

- ✓ 売上高は、主要ビジネス機器が製品の供給不足の影響を受け減少したこと等により、減収
- ✓ 営業利益は、高付加価値な製品・サービスの構成比を高めたこと、販管費の削減に努めたこと等により、大幅に増益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2021年	2022年	対前年
ビジネス機器他	421	396	△6%
ITソリューション	172	175	+2%
売上高計	594	572	△4%
営業利益	40	45	+15%
利益率	6.7%	7.9%	+1.3%

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンシステムアンドサポート

	1Q実績		増減	
	2021年	2022年	金額	率
売上高	262	248	△14	△5%
営業利益	10	14	+4	+36%

8

8ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

1Qの売上は、製品の供給不足の影響等によりビジネス機器が減少したこと等により、売上は対前年4%減の572億円となりました。一方で、営業利益は、高付加価値な製品・サービスの構成比を高めたこと、販管費の削減に努めたこと等により、対前年6億円増益の45億円となりました。

(ビジネス機器他)

主要ビジネス機器の状況については、製品の供給不足の影響を受け、オフィスMFP、レーザープリンターの売上は減少しました。オフィスMFPの保守サービスについては、引き続き大都市圏を中心にテレワークが継続したこと等により、オフィスにおけるプリントボリュームが減少し、売上は減少しました。一方、レーザープリンターカートリッジについては、4月の価格改定を見据えた駆け込み需要等により、売上は大幅に増加しました。

これらの結果、「ビジネス機器他」全体の売上は、対前年6%の減収となりました。

(ITソリューション)

ITソリューションについては、標的型攻撃やフィッシングなど情報セキュリティに対する脅威が高まっていることを背景に、IT支援クラウドサービス「HOME」やウイルス対策ソフト「ESET」等のセキュリティが順調に推移しました。また、お客さまのIT機器等の保守や運用サービスの獲得に注力し、受注件数が増加しました。これらの結果、「ITソリューション」全体の売上は、対前年2%の増収となりました。

(キヤノンシステムアンドサポート実績)

主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年5%減の248億円となりました。営業利益は高付加価値な製品・サービスの構成比を高めたことによる荒利の増加や販管費の削減に努めたこと等により、対前年4億円増の14億円となりました。

* エリアここまで

<ネットワークカメラ>

なお、「補足資料」に記載されております、グループ全体のネットワークカメラの1Q実績につきましては、一部製品で引き続き供給不足の影響を受けている状況ですが、依然として人との接触を避けた遠隔での映像の利活用のニーズが高いこと等により、売上は対前年で2%増となりました。

- ✓ 売上高は、全てのサブセグメントが増加し、大幅に増収
- ✓ 営業利益は、増収に伴う荒利の増加や、販管費の削減により、大幅に増益

	1Q実績			(単位：億円)
	2021年	2022年	対前年	
プロダクションプリンティング	23	25	+7%	
産業機器	37	70	+90%	
ヘルスケア	22	34	+52%	
売上高計	82	128	+56%	
営業利益	7	22	+223%	
利益率	8.3%	17.1%	+8.8%	

■ (ご参考) 主要関係会社実績
 キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	1Q実績		増減	
	2021年	2022年	金額	率
売上高	21	23	+2	+9%
営業利益	1	2	+1	+260%

9ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

1Qの売上は、全てのサブセグメントにおいて増収となり、対前年56%増の128億円となりました。営業利益についても、売上増加に伴う荒利の増加や販管費の削減により、対前年15億円増益の22億円となりました。

(プロダクションプリンティング)

プロダクションプリンティングについては、印刷業のお客さま向けに連帳プリンターが好調に推移したこと等により、売上は対前年プラス7%となりました。

主要関係会社であるキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は対前年9%増の23億円となりました。営業利益は、荒利の増加や販管費の削減により、対前年1億円増の2億円となりました。

なお、お手元の補足資料の「ビジネス機器」の下から2行目に、プロダクションプリンティングに他セグメントの売上となっているプロダクションプリンタービジネスを加えた「商業印刷」として、売上対前年増減比を記載しております。「商業印刷」の1Qは、プラス5%となりました。

(産業機器)

産業機器については、国内の半導体メーカーの投資が引き続き活発であることを背景に、半導体製造関連装置や保守サービスが好調に推移しました。また、検査計測装置の大型案件等もあり、売上は対前年でプラス90%と大幅な増加となりました。

(ヘルスケア)

ヘルスケアについては、病院向けの電子カルテおよび医療IT基盤の構築等にかかる複数の案件に加え、診療所や調剤薬局向けにオンライン資格確認の導入案件があったこと等により、売上は対前年でプラス52%と大幅な増加となりました。

(単位：億円)

■ セグメント別	2021年 1Q	2022年 1Q	増減	
			金額	率
エンタープライズ	311	362	+51	+16%
エリア	172	175	+3	+2%
その他	90	91	+1	+1%
合計	573	628	+55	+10%

■ 商品・ソリューション別	2021年 1Q	2022年 1Q	増減	
			金額	率
SIサービス	188	212	+23	+12%
保守・運用サービス/アウトソーシング	100	125	+24	+24%
システム販売・ITプロダクト	285	291	+7	+2%
合計	573	628	+55	+10%

※2022年より、一部商品事業の組替を行っており、2021年実績についても、その影響等の組替を行っております。
※その他には、コンシューマセグメント、プロフェッショナルセグメント、本社部門、セグメント間取引消去が含まれます。

10

10ページ目は、グループトータルのITソリューション売上です。

2022年より、一部商品事業の組替を行っており、2021年実績についても、その影響の組替を行っております。

1Qの実績についてご説明します。

セグメント別の、エンタープライズ、エリアの状況については、セグメント情報でお伝えしている通りです。その他については、コンシューマでITプロダクトが減少したものの、ヘルスケアで病院や診療所向けに電子カルテおよび医療IT基盤の構築等にかかる複数の案件があり増収となったこと等により、その他全体では、増収となりました。

続いて、商品・ソリューション別の状況についてご説明します。

「SIサービス」については、キヤノンITソリューションズで製造業向けのSI案件や組込みシステム開発案件が増加していること等により、増収となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」については、エンタープライズセグメントでは、データセンター2号棟の案件やシステムの保守・運用が拡大していることに加え、BPO案件が複数あったことから、好調に推移しております。また、エリアセグメントでは、引き続き注力しているIT保守が堅調に推移したこと等により、全体で増収となりました。

「システム販売・ITプロダクト」については、半導体不足による商品供給不足の影響を受けたものの、エンタープライズセグメントでビジネスPC案件が複数あったこと等により、増収となりました。

業績予想サマリー

Canon

(単位：億円)

	2022年 年間 (前回予想)	2022年 年間 (今回予想)	増減		2021年 年間 (実績)	前年比較	
			金額	率		金額	率
売上高	5,800	5,830	+30	+1%	5,521	+309	+6%
営業利益	(7.0%) 405	(7.1%) 415	(+0.1%) +10	+2%	(7.2%) 397	(△0.1%) +18	+5%
経常利益	(7.3%) 424	(7.4%) 430	(+0.1%) +6	+1%	(7.4%) 411	(△0.1%) +19	+5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(5.1%) 295	(5.1%) 295	(△0.0%) -	-	(5.3%) 294	(△0.3%) +1	+0%

11

11ページ目は、業績予想サマリーです。

1Qの進捗を踏まえ、
売上を30億円、営業利益を10億円、経常利益を6億円、上方修正いたします。

業績予想 セグメント概要 前回予想比較

Canon

(単位：億円)

	2022年 年間 (前回予想)		2022年 年間 (今回予想)		前回予想比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンシューマ	1,303	120	1,313	128	+10	+1%	+8
エンタープライズ	1,960	139	1,980	140	+20	+1%	+1
エリア	2,325	135	2,325	136	-	-	+1
プロフェッショナル	398	34	398	34	-	-	-
その他	△186	△23	△186	△23	-	-	-
合計	5,800	405	5,830	415	+30	+1%	+10

※「その他」には、セグメント間取引消去やシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

12

12ページ目は、セグメント別業績予想を前回公表値と比較したものです。

コンシューマセグメントでRFマウント等の交換レンズやインクジェットプリンターの高単価製品が好調に推移したこと、
エンタープライズセグメントで製造業向けのSI案件が好調に推移したこと、
エンタープライズセグメントとエリアセグメントで主にITソリューションにおいて高付加価値な製品・サービスの構成比が高まったこと等を踏まえ、

コンシューマセグメントで売上を10億円、営業利益を8億円、
エンタープライズセグメントで売上を20億円、営業利益を1億円、
エリアセグメントで営業利益を1億円、上方修正しております。

また、この修正に伴い、お手元の「補足資料」についても見直しを行っております。

業績予想 セグメント概要 前年比較

(単位：億円)

	2021年 年間 (実績)		2022年 年間 (予想)		前年比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンシューマ	1,295	136	1,313	128	+18	+1%	△8
エンタープライズ	1,906	139	1,980	140	+74	+4%	+1
エリア	2,208	120	2,325	136	+117	+5%	+16
プロフェッショナル	315	25	398	34	+83	+26%	+9
その他	△203	△23	△186	△23	+17	-	△0
合計	5,521	397	5,830	415	+309	+6%	+18

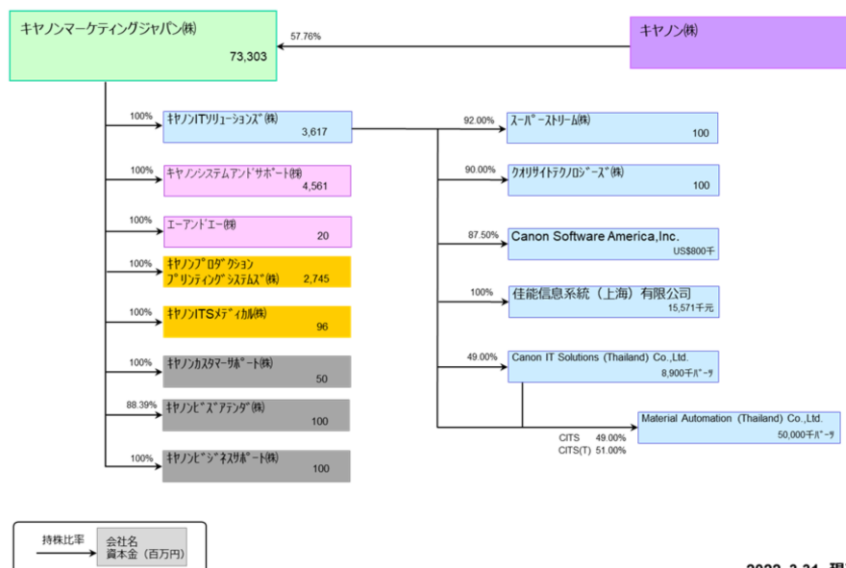
※「その他」には、セグメント間取引消去やシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

13

13ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

参考資料

【参考】関係会社出資関係図



2022. 3.31 現在

【参考】主要関係会社実績 第1四半期(1月～3月)

Canon

(単位：億円)

		2021年 1Q	2022年 1Q	増減	
				金額	率
エンタープライズ					
キヤノンITソリューションズ	売上高	245	277	+32	+13%
	営業利益	24 (9.9%)	38 (13.6%)	+13 (+3.7%)	
エリア					
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	262	248	△14	△5%
	営業利益	10 (4.0%)	14 (5.7%)	+4 (+1.7%)	
プロフェッショナル					
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	21	23	+2	+9%
	営業利益	1 (2.6%)	2 (8.4%)	+1 (+5.9%)	

【参考】販管費の内訳 第1四半期(1月～3月)

Canon

(単位：億円)

	2021年 1Q	2022年 1Q	増減
広告宣伝費	8	8	△0
販売促進費	6	6	△0
保証費	8	7	△1
その他直接費	43	40	△3
人件費	237	227	△10
減価償却費	3	2	△0
その他販売費	62	66	+4
合計	367	357	△10

【参考】営業外収支の内訳

(単位：億円)

	2021年 1Q	2022年 1Q	増減 1Q
受取利息	1	1	+0
受取配当金	0	0	+0
投資事業組合運用益	2	-	△2
その他	2	1	△1
営業外収益 計	4	2	△2
支払利息	0	0	△0
為替差損	0	1	+1
投資事業組合運用損	-	1	+1
その他	1	1	△0
営業外費用 計	1	3	+2

【参考】特別損益の内訳

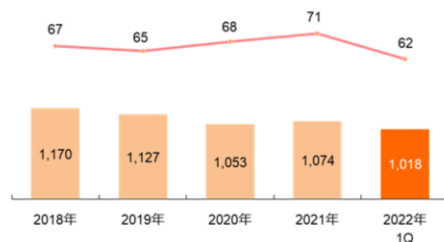
(単位：億円)

	2021年 1Q	2022年 1Q	増減 1Q
固定資産売却益	0	0	△0
投資有価証券売却益	0	0	+0
関係会社株式売却益	9	-	△9
特別収益 計	9	0	△9
固定資産除売却損	0	0	△0
特別損失 計	0	0	△0

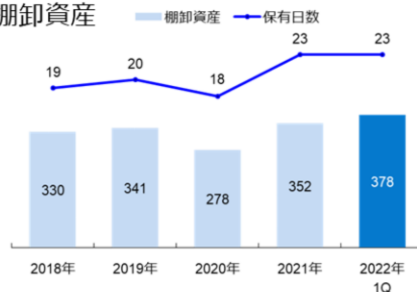
【参考】貸借対照表

	2021年 12月	2022年 3月	(単位：億円) 増減
資産	5,264	5,291	+27
流動資産	3,961	4,011	+50
金融資産	680	753	+73
売掛債権	1,074	1,018	△56
棚卸資産	352	378	+25
その他	1,854	1,863	+8
固定資産	1,303	1,280	△24
有形固定資産	852	846	△5
無形固定資産	65	63	△3
投資その他	387	371	△16
負債	1,517	1,520	+3
流動負債	1,071	1,080	+8
買掛債務	463	500	+37
その他	608	580	△28
固定負債	446	441	△6
純資産	3,747	3,771	+24
株主資本	3,629	3,671	+42
(自己株式)	△21	△21	△0
その他の包括利益累計額	111	93	△18
非支配株主持分	7	7	+0
株主資本比率	71%	71%	+0%

■ 売掛債権 (単位：億円)



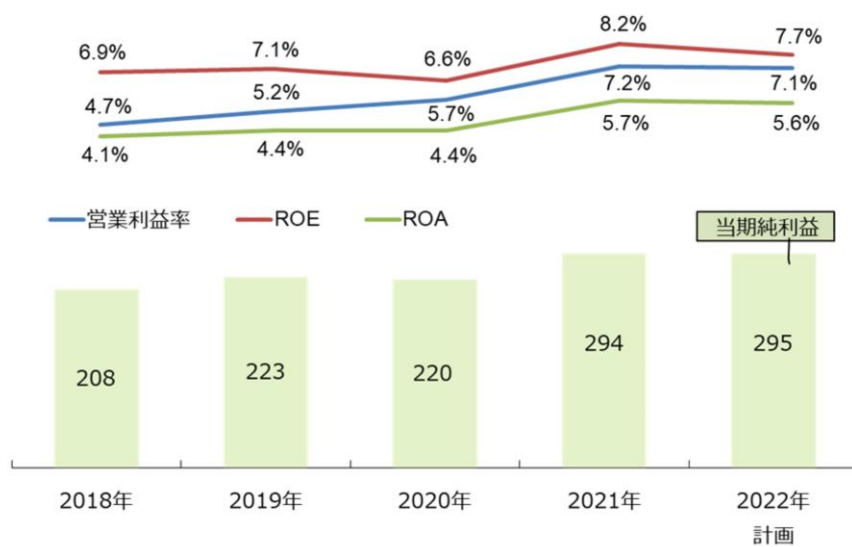
■ 棚卸資産

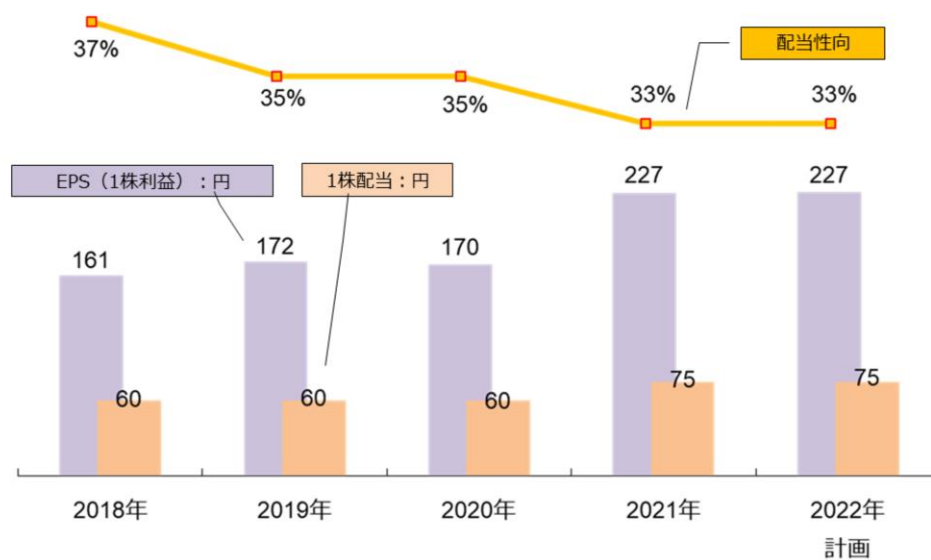


【参考】財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE

Canon

(単位：億円)



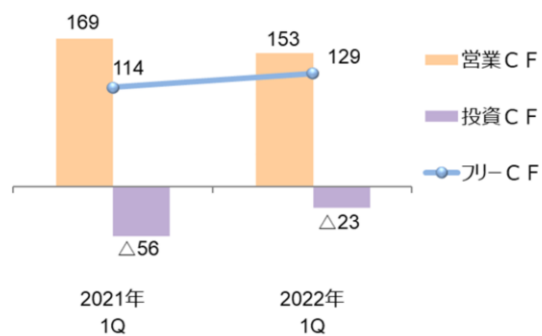


【参考】キャッシュ・フロー／設備投資・減価償却

Canon

(単位：億円)

■ キャッシュ・フロー



■ 設備投資

	1Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2021年実績	32	94	126
2022年計画	18	108	126

※2022年1Qは実績を記載しております。

■ 減価償却

	1Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2021年実績	26	76	102
2022年計画	25	72	97

※2022年1Qは実績を記載しております。

Canon

キャノンマーケティングジャパングループ